

体験の風をおこそう！立少フェスティバル

1 ねらい

国立立山青少年自然の家を子供や家族等に広く開放し、周辺の自然環境を生かした様々な自然体験活動に参加してもらうことで、体験活動の大切さを理解してもらうとともに、自然の家の理解、利用促進を図る。

2 期日

① 『体験の風をおこそう！立少フェスティバル ～みんなでアウトドア楽しもっ！～』

平成30年6月 9日(土)～10日(日)【1泊2日】

② 『体験の風をおこそう！立少フェスティバル 冬！』

平成31年2月16日(土)～17日(日)【1泊2日】

3 対象

幼児・小学生を含む家族・グループ

4 参加人数／募集人数

① 354名(本館泊178名、移動テント泊59名、日帰り117名) / 200名(宿泊)

② 286名(本館泊188名、日帰り98名) / 200名(宿泊)

5 講師・スタッフ

① 国立立山青少年自然の家職員、法人ボランティア等34名、
国立能登青少年交流の家職員、国立妙高青少年自然の家職員、国立若狭湾青少年自然の家職員、
国立乗鞍青少年交流の家職員、黒部市ふれあい交流館職員、立山芦峯ふるさと交流館職員、陶農館
職員、富山大学天文同好会、協力企業・店舗

② 国立立山青少年自然の家職員、法人ボランティア等13名、
国立妙高青少年自然の家職員、国立若狭湾青少年自然の家職員、黒部市ふれあい交流館職員、
立山黒部ジオパーク協会、富山大学天文同好会、協力企業・店舗

6 後援

北日本新聞社、Net3

7 内容

① 移動テント泊体験、野外炊事(アメリカンクッキング)、やきつけもちづくり(芦峯寺郷土料理)、
プラネタリウム、来拝山登山、大丸山登山、前谷沢歩き、ポイント探し、森のビンゴゲーム、丸太
切り体験、火おこし体験、ショベルカー操作体験、VR体験(立少上空散歩)、クラフトづくり(ハ
ーバリウム、越中瀬戸土deブローチ、のりくら人形、カラマツクラフト、ウッドコースター、表札、
貝殻ろうそく、カラフルスライム)

② プラネタリウム、アイスクリームづくり、かんじきハイク、雪上運動会、しり滑り、チューブそり
滑り、雪像づくり、館内オリエンテーリング、VR体験(立少上空散歩)、クラフト(ネイチャーク
ラフト、若狭めのう、バスボムづくり、アンモナイトマグネット)、キャンドルナイト

8 参加者(保護者)からの感想

● テント泊が初めてだったが、こういう機会に体験できてよかった。快適で楽しかったので、家族でまた楽しみたいと思った。

● 自然の中で楽しみたいという家族が集まった中で、互いに挨拶を交わしたり、交流を深めたりするこ

とができてよかった。普段できない自然体験を家族で存分に楽しむことができてうれしかった。

- 初参加だったが、どの活動も楽しく来年もぜひ参加したいと思った。
- 平地では体験できない多くの雪で活動でき、有意義な時間だった。
- たくさんの活動があり、楽しませてもらった。しかし、活動が多く全て体験できなく残念である。

9 成果

- 天候に恵まれた中で、順調に運営ができた。アンケートでは、全ての体験活動について高評価であった。また、ほとんどの家族が「家族でも利用してみたい」とアンケートに記入していた。
- 地域の団体・企業・店舗等と連携し、それぞれのよさを生かしたイベントづくりを目指した。趣旨に賛同し、協力いただける方々が増えた。
- 冬のフェスティバルでは立山博物館のご協力により、まんだら遊苑駐車場を2WD車の駐車場として利用させていただいた。自然の家駐車場だけでは確保できない参加者を、送迎バスと合わせることで迎えることができた。
- 自由活動に新規で館内オリエンテーリングを実施した。休憩時や各活動の待ち時間に実施することができ、好評であった。景品として配布した体験の風グッズも好評であった。

10 今後の課題

- 2日目の参加者にも十分に自由活動を楽しんでもらうため、2日目の開始時刻を早める、終了時刻を遅らせるなどの対応を検討する必要がある。
- 地域と連携した「半国立・半地域立」の施設づくりが求められている。地域の活性化や、利用者サービス向上のため、今後も地域とのつながりを大切にイベントづくりを推進していく必要がある。
- 冬のフェスティバルにおいては駐車場の確保、送迎対応が大きな課題である。活動内容と合わせて無理のない計画を考えていく必要がある。
- フェスティバルの受付は、電話での先着順で実施している。受付方法の煩雑さもあることから、ウェブ申込みを今後活用していくことが求められる。

